

宇治市地域公共交通会議会議録

令和 3 年度第 1 回

令和 3 年 6 月 3 日（木）

10 時 30 分～

Zoom によるオンライン開催

令和3年度第1回宇治市地域公共交通会議会議録

令和3年6月3日（木）

10時30分～

Zoomによるオンライン開催

1. 会議次第

協議事項

- (1) パブリックコメントの実施結果について
- (2) 宇治市公共交通体系基本計画（最終案）について

2. 出席委員（委員14名）

会	長	高橋 愛典
副	会 長	井上 学
委	員	毛海 千佳子、山本 直彦、島崎 貴士、 吉田 實子、岡田 一敏、槻木 章（代：石川）、 上田 智之、曾川 高円、水谷 真、西村 智、 五十嵐 司、久下 伸

3. 欠席委員（2名）

杉本 英樹、松田 克也

4. 事務局（4名）

交通政策課長	井上 宜久
交通政策課係長	西岡 信彦
交通政策課主任	小倉 寛朗貴
交通政策課主任	木村 謙斗

5. 傍聴（中止）

京都府における緊急事態宣言の発出に伴い、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から傍聴を中止

6. 庶 務（1 名）

交通政策課嘱託職員 松下 順子

令和 3 年度第 1 回宇治市地域公共交通会議

令和 3 年 6 月 3 日（木）

10 時 30 分～

Zoom によるオンライン開催

オンライン開催及び傍聴中止の協議

- ・異議なしで承認

協議事項

(1) パブリックコメントの実施結果について

- ・事務局より資料 1 から資料 3 をもとに説明

(2) 宇治市公共交通体系基本計画（最終案）について

- ・事務局より資料 4 をもとに説明

【委員】

このパブリックコメントの特徴としては、市民意識の向上には関心がなく、なるべく低額のタクシーやコミュニティバスを走らせてくれと。その費用はすべて税金で支払ってくれというもの。今回の最終案には、市民意識が向上しないと公共交通は維持できず、行政はそれに対してサポートしていくということが盛り込まれていることから、逆説的に最終案が示していることは重要だと分かったかと思う。パブコメに答えてくれた人は、自分は負担したくないけど便利になってほしいと。それは市民の感覚として当たり前だけど、それじゃ立ちいかなくなるから意識を向上させて考え方を変えていこうということを示しているのだから、こうしたことからパブコメを受けて変更点がないという説明ができるのではないかと思う。これだけ意見が出てそれに対して答えていないと言われることも心配だが、本計画の本質を理解されていない方々の意見が多いことから、今後こういう人たちと協働して意識を向上していく必要があるという説明が出来るだろうと思う。

デマンドタクシーのことを無料のタクシーで便利だと勘違いしている人が多いが、そもそもそんなものではなく、みんなで相乗りとかすれば、タクシーを使った方がよっぽど良いということを伝えていかなければならない。タクシーは高いとみんな書いているが、車を持っている人たちは 1 日 1,250 円かかっており、週

に3回くらいのお出かけをすれば、車を持っていたとしても1日2,800円くらいかかる。それはタクシーに乗っても十分ペイできる金額だということを市民にもっとアピールしていくことを検討していただけたらと思う。

宇治市における新しい観光の移動手段としては、グリスロが一番いいと考えられ、今後検討できればいいのではないかなと思う。市は移動手段の確保に補助していないと言われるが、のりあい交通事業は地域が汗をかいたら補助金を出す仕組みなので、のりあい交通事業の魅力をもう少し地域の方に理解していただくことで、決して市が補助していないわけではないということも理解されるかなと思う。

ただ長期的に考えると、現在コロナで交通事業者が大変な状況にあるので、タクシー、バス、鉄道に限らず、今後市自体から補助が必要になるかもしれないという危機意識は委員の皆さんと共有しておいた方がいいのではないかなと感じた。

こうしたことから、最終案の内容はこのままでいいと思う。

【委員】

目指すべき交通体系として、「三者協働による調和のとれた持続可能な公共交通の構築」とあるが、調和のとれたという意味はどんな状況をイメージしたらよいか。三者がそれぞれの立場の中で努力してくださいというイメージなのか。言葉ではなるほどそうだよねと分かるが、具体的なことは今から検討されるのか。あるいは方向性みたいなものがイメージとしてあれば教えてほしい。

【事務局】

市の現状として、既存の公共交通が大変充実している中で利用促進が必要になってくるということを主軸に置きながら、この間パブリックコメントにおいても様々な意見をいただいていたところである。市の背景や様々な状況を考えると、既存の公共交通の利用促進を進めていくためには、交通事業者の取り組みだけでなく、市民の方自らが利用しようという意識の持ち方や、既存の公共交通と市民の皆さんの利用だけでは賄いきれないようなことに対する行政の取り組みも必要になってくる。これまで取り組んできたことも踏まえ、それぞれ単体で努力する

ということではなく、皆さんの取り組みを合わせていくということで調和のとれたという文言が相応しいのではないかと考えこの案とさせていただいた。

【会長】

既にのりあい交通事業などで調和のとれた取り組みがなされ成果を残しているのも確かであり、その延長線上で今後も取り組みを進めていくと。ただその時に地域の実情や住民の方の考え方も様々なので、そこをどう調和させていくのかというが今後の課題になってくると思う。

【委員】

最終案の内容について基本的にはこれでいいと思う。先ほど話があったようにパブコメの内容も様々な思いが反映されていると感じた。市民の目線から基本方針に示されているものを見たときに、既存の路線についてコメントされているところが多い。一方で22ページの基本方針3のところでは、「産業や観光振興の方向性を踏まえ、新たな交通需要に対する新規路線の可能性を研究する」とあるが、新規路線ということはここでしか出てきていない。他は既存路線となっているので、そこは市民の方からの意見があれば、もう少し新規路線の可能性について余地を残すのも一つかなと思う。

【事務局】

基本方針3の中にもまちづくりと一体となった公共交通ネットワークの充実ということで、今後様々な宇治市としてのまちづくりの課題がある。本計画の上位計画である総合計画、都市計画マスタープランの次期計画について、現在策定作業中であるが、市としても新たな産業や観光といったまちづくりとも連携した取り組みが必要だということで、移動に観点をおいた本計画においても方針の中で取り上げていくべきというご意見をいただく中で記載させていただいている。具体的に新規路線ということで取り上げることができれば一番いいと考えているが、今のところ個別具体的な路線や目的地ということを本計画で出ささせていただくことは難しいと考えている。様々な地域性の中で、産業や観光といったところ

も今後市として積極的に取り組んでいくべきというご指摘や考えも持っているの
で、新規路線の可能性についてはこれらの情報共有を図りながら、都市整備部と
しても積極的に繋げていきたいと考えている。

【委員】

まちづくりという視点もどこか文言を入れていただけると市民目線からすると
いいのかなと。産業や観光のためだけでないという文言を少し盛り込んでいただ
けたらありがたいと思う。

【事務局】

施策の方向性、施策の具体例の中ではまちづくりという表現を記載している
が、何かしら考えの中でお預かりさせていただき、検討させていただければと思
う。

【会長】

まちづくりという言葉は便利ではあるが、曖昧なところがあるので、先ほどか
ら出ている市民協働みたいところと重なってくるところもあると思う。そこは
個別の施策を展開していく中で盛り込んでいったり表現を考えたりする必要があ
ると思う。

【委員】

観光もそうだが、既存の公共交通を持続するためには、今の地域住民が乗らな
ければいけない。地域住民は平等院などで観光されないことから、通勤・通学や
普段の用事で現在利用されている方に対して、公共交通を利用した際に何かメリ
ットがあればもう少し持続していくのかなと思う。例えば、京都京阪バスに乗っ
て、次細かいところをタクシーに乗り換えたら、その乗り換えによってポイント
や割引があればよい。違う会社でポイントや割引を共有することは難しいので、
それを宇治市で管理してもらおうとよいのではないかな。

また、京都京阪バスで京阪宇治駅から宇治田原町のお寺へ行く際など、宇治市で完結しなければいけない話ではあるが、バスに乗って細かいところはタクシーに乗り換えて行く、もしくは行きはバスで帰りはタクシーを利用するというときに、宇治市の事業者の公共交通を使ったことに対してポイントが付けば利用促進になるかと考える。

不特定多数の観光客相手の観光というくくりに絞ってしまうとそれ以上が出てこないのでは、今ある現状のバスとタクシーを利用される宇治市民または宇治市に通勤・通学される方への利用促進があればよいと思う。

【事務局】

利用促進では、市の特性として観光というものも大きくある。ただ既存の公共交通が発展し、鉄道、路線バス、タクシー事業者もこれだけの規模があるというのは、通勤・通学などで、宇治市外へ出かける、宇治市内へ来られる方が多いというのは間違いない。こうした中、公共交通を維持していくためには、様々な角度で取り組むことが必要ではないかと考えている。ご提案いただいたように、今シームレスというような取組みの中で、乗り継ぎに際して何かしらのメリットを設けていくということも具体的な施策の一つとしては考えていけると思っている。事業者が異なることや、市域外へお出かけされる際にどうするのか、詳細については様々な課題があるかと思う。行政がお金を使うとなると、施策の提案をしていくなかでこうしたことが大変重要視されるので、市としては具体的な施策の検討の際には、視野を広く持ちながら皆様方、特に交通事業者へのご協力やご理解を念頭に置きながら、考えていきたいと思っている。

【会長】

基本方針4のMaaSはそういった考え方にかかなり近づいてくるかなと思う。直接的な運賃の割引は難しいとしてもMaaSを入れると、乗り換えるたびにポイントが付くとか、そういったことは技術的には可能になっていくだろうと思うし、例えば情報関係の企業との連携もこれから機会が増えてくるのではないかなと思う。

【委員】

今の意見について情報共有させていただく。ポイントなどをつける方法では、国の三次補正予算を使って、京田辺市が京阪バスグループの IC 登録している人達を対象にポイントをあげ、そのポイントを使ってバスに乗ってくださいという取り組みをしている。また、奈良交通であれば CI-CA を持っている人にポイントを出している。対象が中学生なら中学生に 2,000 円分。小学生だったら小学生は 1,000 円分だけどその保護者にあと 2,000 円分とか。園児であればそのまま保護者にポイントがつくという子育て支援となっている。外出も抑制され、なかなかお金もしんどい中で子育てをするときに外出を支援するという名目でポイント還元をやっている。そういう名目だったら宇治市でも参考になる。特に宇治市の場合は、最終案を見ているとこの 20 年間で徒歩が減って車が増えている。パブコメ結果から、車乗らなくなっているとか将来車やめて乗らなくなるというのはウソだというのが分かっているの、ぜひ子どものうちから公共交通を使う習慣を身に付けてもらうためにもそういうポイント制度はいけるかなと思う。

奈良県の五條市も同じように、市民全員希望した人たちに CI-CA 5,000 円分のポイントを付与して公共交通の維持を図っていきましよう。

久御山町では、駅から目的地まで定額タクシーをやる。それもバスの本数が減っている中でサポートしていきましよう。定額で割安で移動するということでタクシーの利用も促進していきましようというものをやっている。

宇治市の場合も、市民向けの事業があるが、観光向けでは、今後任天堂のミュージアムが出来た時に各駅からのアクセスで定額タクシーをすとか、任天堂との協議が必要だが、アプリで予約をしておくとタクシーに乗ったらクリアファイル 1 枚もらえとか、そういうことで今あるインフラを上手く使って市内の移動を活性化させることが出来ると思うので、そういうのも参考にしていただければと思う。

【会長】

昨日、任天堂さんの博物館の計画が発表になり、小倉駅のすぐ側だということ、で今までに出来ないタイプの観光客の方もお見えになる可能性もあるので、そういう方々に既存の観光地とかも見ていただいたり、いずれは宇治に住みたいと思ってもらったりとか、そういう所でも交通政策は重要な役割を果たしていると思う

ので、これは明るいニュースと思ってこれから色々方針を練っていければと思う。

本日いただいたご意見に関して、最終案の修正に関するものについては事務局に持ち帰って検討していただき、その内容を会長・副会長で確認して最終的な決定とさせていただきたい。これまで計画の策定に関しては、委員の方々のみならず、非常に多くの方々に様々な形で取り組んでいただき感謝する。

先ほどのパブリックコメントの結果を見ると、メールで意見を寄せられた方の比率が低いという感じがするので、メールで意見を出すのが一番便利だと感じている世代の方々にもこれから計画を進めていく中で市民の協働等に関わっていただければと個人的には感じている。

— 了 —

宇治市地域公共交通会議会議運営規程第5条第2項の規定により署名する。

会議録署名委員

会 長

高橋 愛典

委 員

毛海 千佳子
